

広田っ子

～「本物の笑顔」かがやく広田小～

佐世保市立広田小学校 学校だより

第2号 令和5年5月23日(火)

文責 校長 井上 文典

「本物の笑顔」に簡単アクセス

広田小 HP QRコード



マスクをはずし、笑顔が見える学校生活が戻ってきました

新緑がまぶしい季節になりました。広田の丘に吹く風も初夏を感じさせてくれます。

5月中旬から、マスクを外す子も多くなり、豊かな表情を交換しながら学校生活を送っています。やっとこの時が戻ってきたなと喜んでいます。(マスクの着脱は個人の意思を尊重しています)

さて、4月の学校便りでもふれていましたが、今年は「学校にワクワクをとれどもどす」を合言葉に、子どもたちが存分に表現活動をし、友達とコミュニケーションを図りながら学習を進めていきます。また、授業が始まる前の15分の朝の活動の中で、水曜日を「スマイルタイム」とし、学級で歌を歌ったり、友達との相互理解のための活動の時間にしたり、さらには、取り組みたいことについて学級で話し合いを行い、子どもたちが自治的に活動を考え、実践する時間にしていきます。

学習において、インプットすることは知識を得るためにとても大切なことですが、それ以上にアウトプットを考えながらの教育活動は、学びの質を上げ、学校生活の当事者意識をあげることに強く結びつきます。

朝の「スマイルタイム」は、学級における子どもたちの主体的なアウトプットの時間として、価値を創造し、高めていきたいと思います。

教科の問題では「正解」があります。しかし、学校生活の中には正解のない問題がたくさんあります。広田小学校ではスマイルタイムも含め、「為すことによって学ぶ」という考えを大切に、正解のない問題に対して、対話をし、相互理解を深めながら、しなやかに課題解決ができるように子どもたちを育てていきます。



悩みを言葉にするのが難しい時があります。でも、最後まで聴きます！

「何かあったら相談してね」

子どもたちは、この言葉で少しほっとします。

しかし、心の様子を正確に言葉にすることが難しい時があります。

校長室に相談に来た子の話は

上手に話せなくても、最後まで話を聞くようにしています。

聞くだけでも、笑顔になることが多いです。

これは全職員で大切にします。

家庭訪問 ご協力ありがとうございました

本年度は、対面での家庭訪問を実施させていただきました。保護者の皆様におかれましてはご多用の中、ご理解、ご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

お子さんの体や心の健康のことや家庭での様子や学校での様子など、情報を共有させて戴いたことをこれからの指導や支援にしっかり生かしていきます。

PTA 総会で、5つの柱でお話しました

はじめに 令和5年度は学校にワクワクを取り戻し、「本物の笑顔」をめざします

加速度的な変化への対応が迫られる今、心が揺れ、不安になります。だからこそ、今、一番大切なことは揺るがない土台を構築することだと考えます。人格を形成していくために大切なことを日々の教育活動の中でシンプルに思考し、結果につながる実践をしていきます。そして、本年度も本物の笑顔が輝く子どもたちを育てていきます。

1 子どもたちの心から「どうせ…」のつぶやきをなくしていきます

子どもたちの伸びを阻害する要因の一つは「どうせ…」というあきらめの習慣です。一人一人の個性に応じた指導、支援とともに、適切な負荷に対しては粘り強く取り組ませ、達成感を味わわせていきます。子どもたちの「自分で考えた」「自分で決めた」「自分でできた・わかった」この感動を大切にしていきます。

2 「ありがとう」「ごめんなさい」が言える子どもを育てます

「感謝と謝罪」の心と言葉は、大切な生きる力です

学校では、日々の実践を通して豊かな言葉、豊かな時間をつくり出していけるようにしていきます。特に「ありがとう」を感じる感性をもち、言葉にできる子どもを育てます。また、指導を受けるような行動があったとしても、自分自身をしっかりと振り返り、「ごめんなさい」と言える子を育てていきます。

3 本年度も「はきものそろえ」から！

「ルール」「マナー」を身につけることは、学校生活や社会生活へ適応していくための土台です。まず「はきものそろえ」を徹底します。この「まず…」を徹底することを大切にします。チーム広田として徹底できたことを子どもたちと共に喜び合い、そして、子どもたちの心の居場所を、授業や学級の活動に広げていきます。

また、昨年度から取り組んでいる「広田ベーシック」(はきものそろえ 返事・あいさつ 座学前の黙想)は教育的効果が明確に表出しています。実践を継続します。

4 経験こそ最大の学び！学級における失敗、トラブルから学び、そして個と集団を育てます

失敗をおそれず、自分で決める(自己決定)ことができる学級の風土を大切にします

自分で判断し、自己決定する力を付けるために一番大切なことは、自らチャレンジし、判断や決定の間違いを経験することです。今、この経験が不足しています。「間違ったけど、自分で決めることができた」という自己評価、他者評価を大切にしながら、学級をつくっていきます。

人間関係を形成する力を育てるために、自治的、自立的な集団活動を大切にします

自分の考えを主張する力と同じように、他者の考えを傾聴する力と他者と折り合う力はとても大切です。学級というコミュニティの中には、自分と異なる思いや考えがあることを理解させ、お互いが安心して意見交換ができるようにしていきます。また、その過程において失敗やトラブルがあることも想定し、問題解決のための話し合いをしっかり行うようにしていきます。

5 身近な大人の言葉、姿は大切な手本です

子どもたちは学習と同じように、生活の中で言葉を習得しています。身近に、美しい言葉、正しい言葉をつかう人がいればその影響を受けます。あいさつを自分からする人が身近にいれば自分からあいさつをする人になります。学校、家庭、地域の大人は、子どもたちにとっては手本であり、逆に子どもの姿は、身近な大人の言葉や姿を映す鏡です。

「子どもの前では〇〇」…これも大切なことだと思っています。

結びに

子どもたちは、学校や家庭、地域の風を感じて育ちます。通学路、校庭に可憐に咲き、頑張っている花を見て育ちます。あいさつをする大人に囲まれて、あいさつの「心」を知ります。はきものをそろえる人を見て、物事を整えることの大切さを知ります。学校、家庭、地域の教育文化はとても大切です。そして、これからも、それが子どもたちを包む風となり「薫習」となっていくます。新年度、保護者の皆様とともに新しい帆をはり、新しい風を受け出航できることを嬉しく思います。